

【風船バレー競技規則】

山口県ふうせんバレーボール連盟

1：設備と用具

- (1) コート
バドミントンコートを使用する。
- (2) ボール
鈴入り風船（直径40cm）を使用する。（鈴は風船1つに2個入れる）

2：競技方法

- (1) チーム編成
 - ア 競技は6人で行うこととする。
 - イ チームの編成は監督、コーチを含めて12人以内とする。なお、監督、コーチも試合に参加できるものとする。
 - ウ HPは3人以上とし、障害者に限る。APは3人以内とし障害の有無を問わない。
- (2) 試合時間
試合は1セットマッチで1セット15分間とする。
- (3) 勝 敗
 - ア 15点先取したチームの勝ちとする。ただし試合時間が終了した場合はその時点で得点の多いチームを勝ちとする。
 - イ 試合時間を過ぎて同点でのラリー中はそのまま試合を継続し、得点が入った時点で勝敗を決める。但し、5分を経過しても得点が入らない場合は試合を終了し、代表者によるジャンケンで勝敗を決定する。
- (4) サーブ方法
 - ア サーブ権は試合開始時に代表者がジャンケンで決める。その後は得点したチームがサーブ権を持つ。サーブ権と得点は関係がない。
 - イ サーブは2本制とする。（ネットインは認めない）
 - ウ 1点ごとのローテーション方式とする。
（HP→AP→HP→APの順番で行う）
 - エ APはサービスライン後方から行うが、HPはサービスラインの内側から行ってもよい。
 - オ HPは他の人がトスを上げたりサーブ直後に他の人がもう一回打ってもよい。
- (5) 返 球
 - ア チーム内全員が風船に触れること。但し8回以内に返球すること。
 - イ 1人2回まで触れてよいこととする。但し、連続2回は反則とする。
- (6) アタック
 - ア HP・APともサービスライン後方からとする。
- (7) 選手交代
選手交代は審判の許可を得て行う。（但し試合時間終了3分前からは認めない）

- (8) 作戦タイム
認めない。

3：反則

以下の反則があったときには相手チームに1点を加算し、同時にサーブ権も相手チームが持つこととする。

- (1) オーバータイムス
8回以内で相手コートに返球できなかつたとき、また同一選手が3回以上風船に触れたとき。
- (2) ナットオール
相手コートへの返球までにチーム内に1回も風船に触らない人がいたとき。
- (3) ドリブル
同一選手が連続2回風船に触れたとき。但しHPは明らかに故意の場合のみ反則とする。
- (4) ホールディング
風船を握ったり、風船が体の上で止まったりしたとき。
- (5) タッチネット
ネットに体の一部が触れたとき。
- (6) オーバーネット
ネットの上から相手コート上にある風船に触れたとき。
- (7) インターフェア
故意にネットの下から足などを相手コートに出して相手選手のプレーを妨害したとき。
- (8) ナットパス
HPに故意に風船をぶつけたとき。
- (9) ダブルフォルト
サーブを2回とも失敗したとき。

4：その他

- (1) ノータッチ風船が車椅子に当たった場合は触れたことにならない。またプレーとしてもカウントしない。
- (2) 同一チームの2人同時プレー
2回プレーとしてカウントする。
- (3) アウト・オブ・バウンズ
風船がコート外の床、コート外のもの、ネットの支柱に触れた場合はアウトとする。
- (4) ノーカウント
風船が割れたとき、風船がネットに引っ掛かった時、その他ゲームの進行に支障が生じたとき等は主審の判断で得点を付けず、プレーをやり直す。

